

キャリア支援を考える 9 : 職業世界の知識なしで 職業観育成？

著者	川喜多 喬
出版者	教育新聞社
雑誌名	教育新聞
号	2578
ページ	4-4
発行年	2005-11
URL	http://hdl.handle.net/10114/8753

キャリア 支援 を考える

-9

小学生、中学生ぐらいの相手では、職業観形成入門ぐらいでよい。しかし、これから就職する段階の学生相手の進路指導は、正確な職業世界の知識に立った指導が必要である。

職業知識の訓練の場には、いたことがないキャリア支援者に、職業世界のことをどれだけ教えられようというのだろうか。花形職業について、はときに政府の報告書が出たり、職業への資格づけが行われる際にも研究報告書が出されるが、私のように専門家ならともかく、現場のキャリア支援者が見ているかどうか、はなはだ疑わしい。

職業キャリアに關しては俗説ばかりであ

る、とあえて言うて差し支えない。たとえば、今までの日本の企業はゼネラルリストを育成してきたが、これからはスペシャリストが求められるなど平気で言う者がいる。何でもできるゼネラルリストなど組織人の中にほとんどいない。むしろ経理、法務、人事労務その他、いわゆる「畑」に特化して育てるのが普通である。

管理職にしていく者に複数専門分野をもたせることがあるが、決して「何でもできる」者などに育てはしない。一方、スペシャリストが求められ、また景気変動に強いだろうか。技術革新が進み、国際間分業が変化すれば、かつての専門家は不要になり、新しい専門家が台頭する。成長分野に不足しがちな専門家だって、そうか、その分野に特化すれば強いかに思っている子供

給が増えれば価値が下がる。

製造業の組み立て工程を一度、見学したぐらいで、工場現場では極端に分業が進み、労働者はロボットのごとく動かされていると平

気で書く経済学者がいる。設備機械の保全、稼働率向上、品質改善に日々創意工夫をしながら知的熟練を深めていく現場労働者のほうが、大学の教員なんぞより勉強熱心だとい

職業世界の知識なしで職業観育成？

とは限らない(部下にだって教えることは難しい)。ある組織のある部門しか知らなければ、他の職業世界には俗説しかため可能性がある。

銀行では立派な人事課長であった方も、目の前に看護士になったい、調理師になったい、スポーツマネージャーをやりたいという学生が現れれば、どう答えるか。

職業生活何十年を跨る人も、生徒や学生にキャリアを教えらるる要がないと言う。

職業生活何十年を跨る人も、生徒や学生にキャリアを教えらるる

法政大学キャリアデ
ザイン学部教授

川喜多 喬

キャリアプロフession
ナル扱いされるのは、
嘆かわしい。